

宮崎善仁会病院 リウマチセンターニュース

第 37 号 (2025 年 5 月号 [2025/5/12 発行])

リウマチ科に通院中の患者さんは、楽しいゴールデンウィークをお過ごしになられたでしょうか？気候が変動する時期ですので体調管理にはご注意ください。以前、リウマチセンターニュース第 14 号 (2023 年 5 月号) に帯状疱疹ワクチンのお話しをしましたが、その後、いろいろと変更点も加わりましたので、本号では、その後の更新内容も含めて、改めてお話ししたいと思います。

帯状疱疹ワクチンの種類

帯状疱疹ワクチンは、帯状疱疹の発症を抑制し、重症化や後遺症の予防につながる可能性があります。帯状疱疹ワクチンには、(1)乾燥弱毒性水痘ワクチン (生ワクチン) と、(2)乾燥組替え帯状疱疹ワクチン (不活化ワクチン) の 2 種類があります。両者とも、50 歳以上の方を対象とした「任意接種」となっています。生ワクチンは接種が 1 回で良いこと、安価である事の利点がありますが、課題として、ワクチン効果持続が 5 年間程度で、特に高齢者に対する効果が低いこと、生ワクチンのため、妊娠されている方、免疫機能異常のある方、関節リウマチを始めとして膠原病のように免疫力抑制をきたす治療を受けている方には投与出来ないことがあげられます。一方、不活化ワクチン (シングリックス®) は、2 回接種 (初回接種から 2 ヶ月～6 ヶ月の間で 2 回目の接種が必要になります) が必要であること、高価であることはデメリットですが、抑制効果が高いこと、免疫抑制治療中の方でも投与出来るというメリットがあります。また、シングリックス®には、2023 年 6 月 27 日より、

帯状疱疹に罹患するリスクが高いと考えられる 18 歳以上の方に、通常、1～2 ヶ月の間隔で接種ができることになりました。今回も、シングリックス®を中心にお話しします。

シングリックス®の特徴と効果

シングリックス®はウイルスそのものを弱毒化した生ワクチンではなく、帯状疱疹ウイルスの表面に存在する糖タンパク質 E (gE) を抗原 (標的) とした世界初の組換えサブユニットワクチンです。gE 抗原をアジュバント (ワクチンの効果を高める物質) とともに接種すると、gE 抗原に特異的な CD4 陽性 T 細胞 (免疫に関係する細胞) と抗体が誘導され、帯状疱疹予防効果を発揮します。シングリックス®の帯状疱疹発症予防効果は、50 歳代 : 96.6%、70 歳代以上 : 97.9%、80 歳代 : 89.1%でした (生ワクチン : 50 歳代 : 69.8%、70 歳代以上 : 37.6%、80 歳代 : 18%)。帯状疱疹後神経痛 (PHN) に移行するリスク軽減効果は、50 歳以上 : 100%軽減、70 歳以上 : 85.5%軽減でした (生ワクチン : 66%軽減)。約 10 年間持続することが確認されていますが、更に効果が持続する可能性もあります。ただし、関節リウマチを含めた膠原病の患者さんで、免疫を抑制する可能性の有る治療を受けている場合、効果が落ちる可能性があります。例えば、最も免疫抑制状態の強い集団のひとつである「18 歳以上の自家造血幹細胞移植」を受けた方に対するシングリックス®の効果と安全性をみた試験では、2 年後の帯状疱疹予防効果は 70%、PHN 発症リスクの減少は約 90%で、副作用に関しては変わらなかったと報告されており、このあ

たりも参考にすると良いかもしれません。

シングリックス®の副反応

シングリックス®接種後7日間に起こった主な副反応としては、注射部位の痛み 78%、赤み 38%、腫れ 26%、全身性の副反応では筋肉痛 40%、疲労 39%、頭痛 33%、悪寒 24%、発熱 18%、胃腸症状 13%と報告されています。これは体の中で強い免疫をつくらうとするために起こる反応といわれており、2日～3日で多くの副反応は弱くなっていきます。ちなみに、生ワクチンでは、ワクチン接種による疼痛や腫れなどの一般的な副反応以外に、水痘ワクチンに特異的な副反応として、接種後1～3週間後に発熱や、2～3%に全身性の水痘様発疹がみられることがあります。いずれにしても副反応がでた方は、早めに接種を受けた医療機関にご相談ください。

接種後の日常生活での注意点

接種後の注意点としては、接種部位は清潔に保つ、接種当日は激しい運動は控える、接種部位をこすったりもんだりしないなどがありますが、お風呂は入っていただいてかまいません。接種後1週間は副反応の出現に注意し、気になる症状が現れた場合は早めに接種を受けた医療機関にご相談下さい。

接種費用について

带状疱疹ワクチンは任意接種であるため、

原則全額自己負担となりますが、全国的には助成の受けることのできる自治体も少しずつ増えてきています。更に、2025年4月1日より、一部条件を満たす方が新規に定期接種（公費助成）の対象となりました【その対象者：①65歳を迎える方、②60～64歳で対象となる方（※1）、③2025年度から2029年度までの5年間の経過措置として、その年度内に70、75、80、85、90、95、100歳（※2）となる方（※1：ヒト免疫不全ウイルス（HIV）による免疫の機能に障害があり、日常生活がほとんど不可能な方、※2：100歳以上の方については、2025年度に限り全員対象）】。接種費用は医療機関ごとに定められていますので、各医療機関にお問い合わせください。なお、当院でもシングリックス®接種を行っておりますので、ご不明な点や接種ご希望が有る場合は担当医あるいはリウマチ科看護師にご相談下さい。

（日高利彦）

「日本リウマチ学会総会」が開催されました

さる令和7年4月24日（木）～26日（土）、福岡国際会議場等で第67回日本リウマチ学会総会・学術集会が開催されました。当院からは、日高利彦医師、橋場弥生医師、佐々木悠医師と当科の医師全員が発表を行いました。また、最新のリウマチ学の知識を得ることができ、今後の当院での診療に大いに役立つこととなると思います。

リウマチセンターニュースのバックナンバーの必要な方は当院の職員に気軽にお尋ね下さい。なお、当院のホームページでもバックナンバーを確認出来ます。

(https://www.m-zenjin.or.jp/publicity_cat/publicity_1)

(QRコードは右の通り)

